

28年11月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成28年 11月1日～ 28年11月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
11月分の回答企業数は6社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/11月	12月	29/1月
仕入 動向	国産材製材品	8.3	△ 16.7	△ 41.7
	外材製材品	0.0	△ 25.0	△ 41.7
	構造用集成材	0.0	0.0	△ 40.0
消費 動向	国産材製材品	8.3	△ 16.7	△ 33.3
	外材製材品	8.3	△ 33.3	△ 50.0
	構造用集成材	10.0	△ 20.0	△ 40.0
在庫 動向	国産材製材品	0.0	△ 16.7	△ 33.3
	外材製材品	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	構造用集成材	△ 10.0	△ 40.0	△ 50.0

・プレカット製材品の仕入れは11月の増加ないし横ばいが、12月、1月は減少。構造用集成材は11月、12月の横ばいが、1月は減少。

・プレカット製材品及び構造用集成材の消費は11月の増加が、12月、1月は減少。

・プレカット製材品の在庫は11月の横ばいが、12月、1月は減少。構造用集成材は3ヵ月連続して減少。

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	28/11月	12月	29/1月
受注	8.3	△ 16.7	△ 50.0
加工	8.3	△ 8.3	△ 50.0
受注残	8.3	△ 25.0	△ 41.7

・プレカット工場の受注、加工及び受注残は、11月の増加が、12月、1月は減少。

モニターからのコメント

(加工用部材荷動き)

- ・出材少なく単価は強気。冬場に向かい消費は減少傾向。不需求期に近くなり、在庫は減らしに。
- ・2月の不需求期に向けて仕入を少しづつ絞る。11月の消費はそこそこあるが、1月の消費は落ち込む予定。構造用集成材から在庫を絞る。
- ・構造用合板、WW集成柱がタイト。

(受注動向)

- ・受注、加工、受注残全てにおいて減少傾向。
- ・当月までは加工のシフトに問題はないが、来月からは加工減少が気になり始めるので、どのような加工シフトをとるか課題。
- ・引き続き好調な受注状況。